

「人に優しい医療」への貢献

# DeVx

ディービエックス株式会社  
株主通信

2017年3月期報告書

2016年4月1日から2017年3月31日まで

証券コード3079

代表取締役社長

千葉 茂



## 株主の皆様へ

To Our Shareholders

増収、営業・経常増益を達成することができました。  
今後も全社一丸となって変化に挑んでまいります。

**Q** 当事業年度の業績について総括をお願いします。

**A** 当事業年度における我が国の経済は、世界経済の回復や年度後半の円高一巡による追い風を受けた輸出関連企業、製造業を中心とした企業収益の改善傾向の中、設備投資も持ち直しの動きがみられ、緩やかな回復傾向にあり

ました。医療業界においては、2016年4月に診療報酬が改定され、当社が取り扱う商品に係る償還価格については全般として引き下げられるなど、社会保障制度の効率化に向け一層の経営効率化が求められる状況となっております。このような経営環境の中、当社の当事業年度の売上高は352億6千6百万円（前期比12.4%増）、営業利益は15億2千4百万円（同

2.2%増)、経常利益は14億9千1百万円(同2.1%増)、当期純利益は10億2千5百万円(同20.4%減)となり、増収、営業・経常増益となりました。なお、当期純利益の減少は、前事業年度において投資有価証券売却益による特別利益が計上されていたためのものです。

**Q** 不整脈事業の市場の見通しと事業戦略についてお話しください。営業の強化を進めている西日本エリアにおける新規顧客開拓の成果について教えてください。2015年度は、関東エリアで40%、全国平均で21%のトップシェアを占めています。今後、さらにシェアを拡大していくうえでの強み、競争力はどこにあるのでしょうか。

**A** 不整脈事業においては、もともと関東地区に特化して事業を展開していたこともあり、同地区の同事業は当社事業全体の重要な基盤となっております。一方で、従前より全国展開による業容拡大を中長期的課題として取り組んでいることから、関東以外の地区においても、京都や大阪等の西日本を中心に新規開拓は着実に進んでおります。

当社は、営業担当者によるサポート体制を強みとして成長を続けてきましたが、さらなる成長を急務とする中で、当社のサービスを提供できる人材の確保、教育がますます重要となります。2018年3月期においても期初の段階で約20名の営業担当者の増強を行いました。顧客開拓と人材の確保・教育のバランスは、当社の強みを維持しながら業容拡大していくうえでの重要な鍵であると考えております。

**Q** 虚血事業の市場の見通しと事業戦略についてお話しください。米ACIST社の自動造影剤注入装置の独占販売契約終了が来期の業績に与える影響について教えてください。

**A** 当事業年度において、2016年12月31日をもって自動造影剤注入装置の国内総代理店としての契約が終了しました。2017年1月1日以降については、2017年5月31日までを移管期間とする契約に基づき、従前と同じ条件で販売を行ったため、契約終了の影響は2018年3月期以降において現れることとなります。2018年3月期の業績予想においては、売上高への影響は吸収できるとしているものの、利益へのマイナス影響を直ちに吸収するのは容易ではないと予想しております。

利益へのマイナス影響を3期で回復することを目指し、2018年3月期には、自社開発医療機器への取組み、不整脈事業の全国展開への取組み、利益率改善への取組み、新商品ラインナップ追加への取組み等を行います。

**Q** 虚血事業において、エキシマレーザ血管形成システムやコロナリーカテーテルの売上拡大に繋がると思われる商品ラインナップについて教えてください。

**A** エキシマレーザ血管形成システム関連では、2016年5月にエキシマレーザ血管形成システムのコロナリーカテーテルの高出力タイプ(X-80)が、2017年3月にリード除去用シースの高出力タイプ(GlideLight)が販売開始され、エキシマレーザ関連の商品ラインナップに加わりました。下肢末梢動脈治療用レーザカテーテルに関しては、当事業年度においては薬事申請に向けた治験を終了しましたが、PMDA臨床評価相談に基づき同治験結果をもって浅大腿動脈狭窄を適用として申請を行うのは困難と判断し、海外治験結果を用い、下肢動脈留置ステント内狭窄を適用とする方針に変更し申請準備を進めました。

**Q** 株主還元策に関する方針を含めて、株主の皆様へメッセージをお願いします。

**A** 当社は、創業以来、さまざまな挑戦をし、さまざまな環境変化に対応して成長をしてきました。現在新たな変化の局面にありますが、ミッション(企業理念)に掲げられている通り、当社は変化に対応する企業であり、変化を新たな挑戦の機会とすることができる企業です。全社一丸となり、この変化に挑んでまいり所存です。

なお、配当につきましては、当社は、株主の皆様への長期的利益還元を重要政策の一つと位置づけ、継続的な安定配当を目指すとともに、業績に応じた配分と内部留保額の決定を行うことを基本方針とし、配当性向25%を目途として配当を決定しております。同方針に基づき、当事業年度の配当は23円(配当性向25.3%)とさせていただきます。

また、2018年3月期より、配当性向30%を目途として配当を決定する方針へと変更しております。

今後も株主の皆様におかれましては、末永いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ミッション(企業理念)

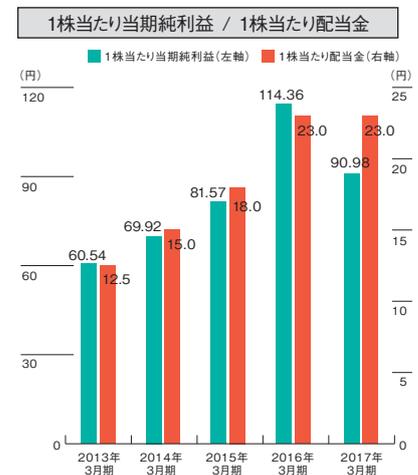
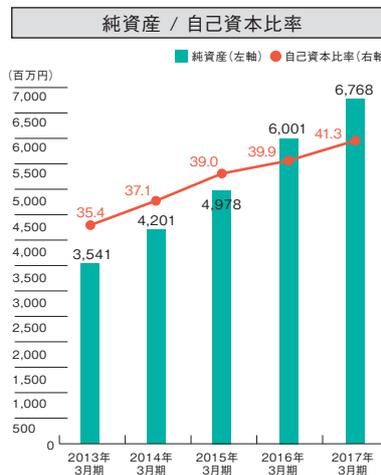
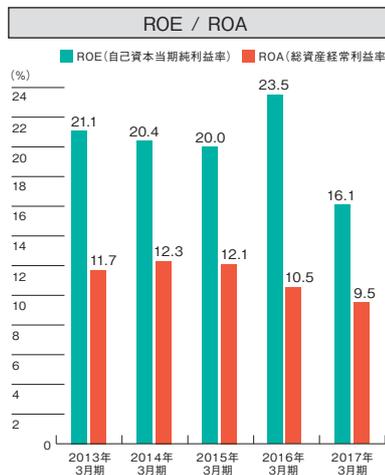
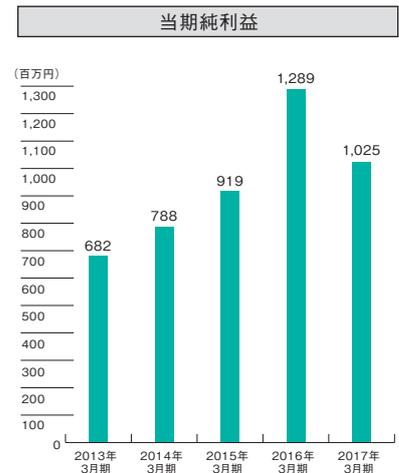
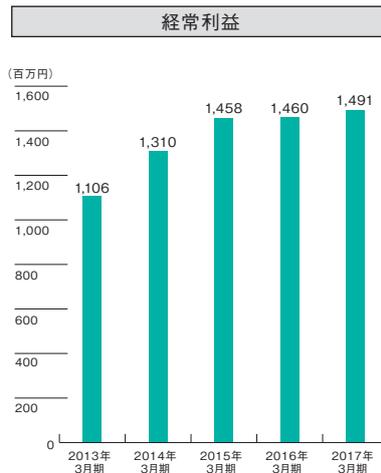
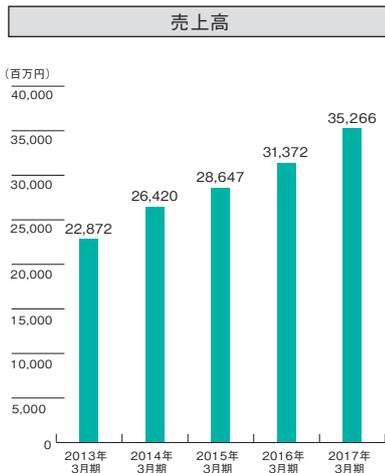
- 私たちは、医療業界で患者・医師・医療関係者のニーズを絶え間なく追求し、創造的なソリューションを提供する事で、社会に貢献する集団です。
- 目標に向かって個々の力を最大限に発揮する『心』ある社員により集団を結成し、確かな未来を見据え、目的意識を明確に保持し、変化に対応する新しい企業です。

# 財務ハイライト (2016年4月1日～2017年3月31日)

## 2017年3月期のポイント

### 売上高、営業利益、経常利益について 増収増益を達成しました。

主力商品の売上数量増や円高のプラス影響もあり、売上高(前期比12.4%増)、営業利益(同2.2%増)、経常利益(同2.1%増)について増収増益となりました。



2012年10月1日および2014年4月1日を効力発生日として1:2の株式分割を実施いたしましたので、分割割合を乗じて算出しております。

## ポイントの解説

### 1 売上高

不整脈事業において、アブレーションカテーテル(心筋焼灼術用カテーテル)類や検査用電極カテーテル等の主力商品の売上数量が増加しました。虚血事業においてはエキシマレーザ血管形成システムの販売が堅調に推移(12台販売)しました。

### 2 営業増益

不整脈事業において償還価格改定等の影響により粗利率が低下した一方、虚血事業においては円高の影響で輸入商品の仕入価格が低下し利益率が改善しました。また、販管費比率は引き続き低下傾向にあり(前期11.2%、今期10.7%)、営業利益は前期比2.2%増、営業利益率は4.3%となり目標とする4%台を確保しました。

### 3 当期純利益は減益

前期において投資有価証券売却益(4億8千2百万円)が特別利益に計上されていた影響により、前期比20.4%減となりました。

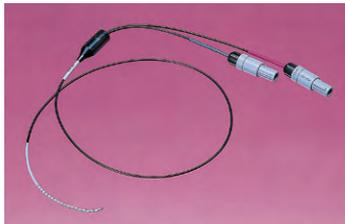
## 事業セグメントの状況

### 不整脈事業 *Arrhythmia Business*

当期実績

売上高295億4千2百万円

既存顧客に対するサービスの充実に努めるとともに、前事業年度に引き続き新規顧客の開拓にも注力いたしました。その結果、アブレーションカテーテル（心筋焼灼術用カテーテル）類、検査用電極カテーテル等の主力商品の販売数量が増加したことから、当事業年度の売上高は295億4千2百万円（前期比15.1%増）、セグメント利益は36億4千5百万円（同3.8%増）となりました。



電極カテーテル

不整脈の診断や薬効評価に欠かせない心臓電気生理検査用カテーテル、およびアブレーション（焼灼）治療用カテーテル等があります。

### 虚血事業 *Ischemia Business*

当期実績

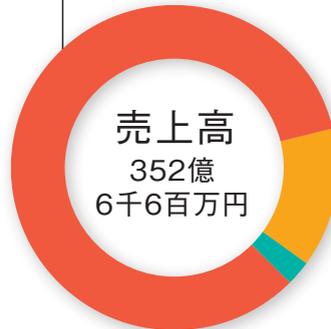
売上高48億2千1百万円

国内総代理店として取り扱っているエキシマレーザ血管形成システムや自動造影剤注入装置「ACIST」の販売が堅調に推移するとともに、円高の影響によりこれら輸入商品の仕入価格が全般的に下落したため、利益率が改善しました。その結果、当事業年度の売上高は48億2千1百万円（前期比1.0%減）、セグメント利益は15億5千3百万円（同12.1%増）となりました。



エキシマレーザ血管形成システム

現在日本国内において「エキシマレーザによる心内リド抜去術」「エキシマレーザによる冠動脈形成術」の2つの治療に適用が認められています。



事業セグメント別売上高構成比

■ 不整脈事業	83.8%
■ 虚血事業	13.7%
■ その他	2.5%

\* 「その他」においては脳外科商品、一般外科商品、消化器商品、放射線防護用品等を販売しております。

売上高  
352億  
6千6百万円

## 営業の概況

### Operating Results

### 自動造影剤注入装置の日本国内独占販売契約が終了。

2016年12月31日をもって自動造影剤注入装置の日本国内独占販売契約が終了し、2017年1月1日以降は、2017年5月31日までの移管期間とする独占販売契約を締結し、同期間中は、従前どおり当社から顧客への販売を行いました。

## 2018年3月期（通期）の業績予想

### Outlook

### 自動造影剤注入装置の 独占販売契約終了の影響により増収減益

2017年5月末をもって自動造影剤注入装置「ACIST」の販売が終了することにより、減益となる見通しです。この影響を3期で回復するために、2018年3月期においては、研究開発活動の強化による自社開発医療機器の開発の加速、不整脈事業の営業力強化・エリア拡大と虚血事業の独自商品の販売拡大、新商品ラインナップの追加、といった取組みを行います。なお、配当に関しては、2018年3月期より、配当性向30%を目途として配当を決定する方針としました（予想期末配当23円、予想配当性向33.1%）。

#### ■ 2018年3月期の業績予想

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2018年3月期	38,377	1,171	1,171	783
2017年3月期 (実績)	35,266	1,524	1,491	1,025
増減率(%)	8.8	△23.2	△21.4	△23.5

当社に関する詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.dvx.jp/ir/index.html>

最新のIR情報を掲載しています。

## Front Line ー自社企画商品ー

当社はミッションに「私たちは、医療業界で患者・医師・医療関係者のニーズを絶え間なく追求し、創造的なソリューションを提供する事で、社会に貢献する集団です。」と掲げております。

当社社員が、医療現場で医療関係者とコミュニケーションを図りソリューションを提供する中で、アイデアが商品の形になった事例をご紹介します。

### リヒカ

#### ペースメーカ植込み手技をサポートする「顔カバー」

ペースメーカ植込み手技を行う場合、医師は患者様の意識がある状態で、左肩を切開します。手技中には、医師や看護師が患者様に話しかける場合もあるため、患者様の全身を覆う覆布は、左肩の切開部を肌に密着させたまま、顔の部分を浮かせる必要があります。

病院では、患者様の顔の周りに空間を作るために、色々な工夫をしながら対応しています。営業担当者に聞き取りを行ったところ、病院ごとにより苦労して対応していることが判り、製品化の検討を開始しました。

材料やサイズ、デザインに関する現場の意見をうかがいながら、試行錯誤を繰り返し、販売を開始したところ、汎用性の高いサイズ設定やニーズに合った使い勝手を高く評価していただいています。

可動タイプ

固定タイプ



### あんてい君

#### カテーテルグリップホルダー

アブレーション治療を行う場合、数本のカテーテルを患者様の太ももから挿入して心臓まで到達させます。その際、カテーテルのグリップは患者様の膝あたりに置くことになり、患者様の寝ている台の移動、患者様の体動、カテーテルに接続されているケーブルの干渉等によって、心臓内のカテーテルが動いてしまう場合があります。カテーテルが動いてしまうと、動く前の検査情報と動いた後の検査情報にズレが発生してしまうため、高度なテクニックと多くの経験を持つ医師がカテーテルをミリ単位で操作して元の場所に戻すこととなります。

特に心房細動アブレーションでは、手技が長時間となり、肺静脈内に留置するリング状カテーテルがズレることに、多くの医師がストレスを感じていました。

医師に相談し、現在主流のカテーテルのグリップにマッチし、さらには各社に数種類あるカテーテルグリップの形状に幅広く対応できるデザインのグリップホルダーを製作することとしました。3Dプリンタ等での試作を繰り返した結果、数十種類のホルダー形状にマッチする絶妙な形状を割り出し、製品化に至りました。



### ガリバー

#### カテーテル台の上で患者様の腕と膝をホールドするディスプレイホルダー

アブレーション治療を行う場合、患者様に軽く麻酔をかけてもうろうとした状態にして行う症例や、電気ショックを頻繁に行わなければならない症例等において、予想外に患者様の体が大きく動いてしまうことがあります。このような症例では、突然患者様が動くことによる事故を防ぐためや、患者様が動くことで使用している器具に不具合が発生することを防ぐために、事前に患者様の膝や手首を拘束しておくことがあります。

患者様が寝ているカテーテル台は、前後左右(上下)に動くようにできていますが、台の下を通して患者様をぐるっと巻いて体を固定すると、カテーテル台の動く範囲に制限が生じる場合があります。また、きつすぎる固定を緩めたり、緩んでしまった固定を締め直したりと、スタッフは覆布の中に潜り込んだ無理な姿勢で、放射線の発生源に近づいての作業を強いられています。

これらを問題と感じていた医師からご相談をいただいたのがきっかけで製品化に取り組みました。

マットの下に器具を入れるアイデアにたどり着くまでの試行錯誤、器具の形状の工夫、布からスタートして紙(不織布)で固定するアイデアにたどり着くまでの試行錯誤。製品を見ると単純ですが、完成までかなり苦労して試作が繰り返され、また、色々な業界の多くの方のアドバイスが詰まった製品です。

「患者さんにやさしい」「看護師の作業が減った」「よく考えてある」「素材の全てがミラクルだ」とさまざまな評価をいただいています。





# インフォメーション

## 会社の概要 (2017年4月1日現在)

商号	ディービエックス株式会社 (DVx Inc.)		
設立	1986年4月1日(昭和61年4月1日)		
資本金	3億4千4百万円		
本社所在地	東京都豊島区高田2-17-22 目白中野ビル5階		
代表者	代表取締役社長 千葉 茂		
従業員数	292名		
事業内容	医療用機器ならびに関連周辺機器の輸出入および製造販売業、修理業、リース業 医療用機器ならびに関連周辺機器の研究・開発 医療および医療用機器全般のコンサルティング業務ならびにサービスの内外提供 医療出版および市場調査を含む関連サービスの内外提供		
営業所	北海道営業所	茨城営業所	
	群馬営業所	埼玉営業所	
	東京営業所	八王子営業所	
	横浜営業所	静岡営業所	
	沼津営業所	浜松営業所	
	名古屋営業所	大阪営業所	
	広島営業所	福山営業所	
	九州営業所		
出張所	仙台出張所	栃木出張所	
	福井出張所	宮崎出張所	
	沖縄出張所		

## 役員 (2017年3月31日現在)

代表取締役会長	若林 誠	社外取締役	村松 光春
代表取締役社長	千葉 茂	社外取締役	堂垣内 重晴
取締役	柴崎 浩	常勤監査役	戸田 幸子
取締役	魚住 洋二	監査役(社外)	三縄 昭男
取締役	鍋谷 正行	監査役(社外)	中村 真一
取締役	平能 直弘		

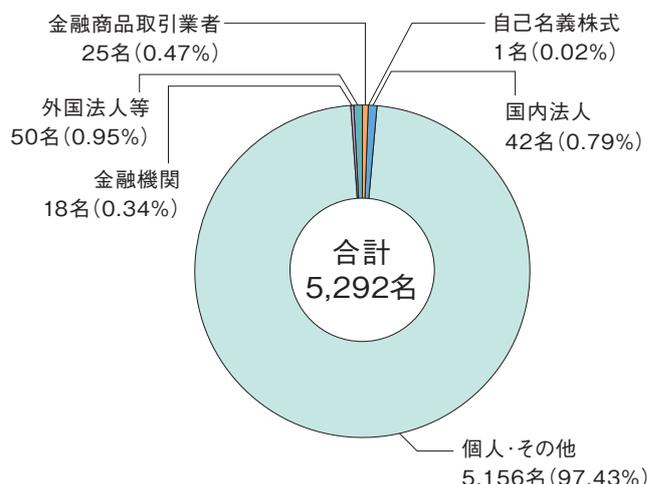
## 大株主 (上位7名) (2017年3月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社MSS	3,192,800株	28.30%
若林 誠	1,692,000株	15.00%
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	749,600株	6.64%
SKANDINAVISKA ENSKILDA BANKEN AB FOR HEALTHINVEST MICROCAP FUND	455,900株	4.04%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	289,000株	2.56%
ディービエックス社員持株会	162,100株	1.43%
戸田 幸子	134,400株	1.19%

## 株式の状況 (2017年3月31日現在)

発行可能株式総数	44,000,000株
発行済株式の総数	11,280,000株
株主数	5,292名

## 所有者別株式分布状況 (2017年3月31日現在)



## 株主メモ (2017年3月31日現在)

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.dvx.jp/">http://www.dvx.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。